

団体名

公益財団法人
静岡県国際交流協会

多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

医療・福祉

事業費総額 1,082 千円

事業名

災害緊急時を含めた外国籍住民のための医療通訳体制整備事業

事業のポイント

- ◇外国人のための医療支援
 - ・地域別連絡協議会の開催
 - ・地区別連絡協議会の要望に応じた研修会やセミナーの開催
- ◇各種セミナーの開催
 - ・日本の医療制度（外国人住民向け）
 - ・外国人診療における注意点等（医療従事者向け）

事業の背景・目的

◇協会では優先課題として、医療通訳体制の整備に向けた事業を展開している。

◇平成 26 年度には、県内 159 病院を対象に、外国人受診者対応に関するアンケート調査を実施した。その中から、外国人受診者の対応件数が多い病院と通訳者が整備されている病院をピックアップし、聞き取り調査を実施した。

◇こうした取組を通じて、医療通訳者の養成と共に、①医療従事者や外国人受診患者を対象とした事業を進めること、②病院での外国人診療について、医療通訳者、外国人患者、そして医療従事者相互の理解を深めることが、根本的な課題を解決するための方策であることが分かった。

事業の概要

1. 外国人のための医療支援地域別連絡協議会の開催 参加人数：114 名
外国人集住度や人材に応じた地域別医療通訳体制づくりを進めるため、総合病院を中心に、静岡県・市町・市町国際交流協会等の相談員、通訳者、医療通訳者及びその他関係者が集まり地域別連絡協議会を開催した。各地域における外国人受診者の対応についての現状及び課題を共有した。
2. 地区別連絡協議会の要望に応じた研修会やセミナーの開催 参加人数：46 名
地域別連絡協議会において、医療従事者、通訳者、及び行政等関係者の三者が連携し、病院や地域の状況に応じた医療通訳の研修会や、その他医療支援に関わるセミナーを各地域において開催した。
3. 外国人住民を対象としたセミナーの開催 参加人数：48 名
日本の医療制度や病院の診療科目や内容等についての誤解や無理解から、医療現場では対応に苦慮する場面が多いため、外国人住民を対象とした研修会を開き、周知に努めた
4. 医療従事者を対象としたセミナーの開催 参加人数：78 名
医療従事者からは、通訳者を介した診療や日本語を話す外国人診療において、戸惑うことが多くあるとの報告があった。セミナーでは、医療従事者から要望があった外国人患者の背景や医療制度の違い等を説明する講座を実施した。
5. 医療通訳言語別勉強会の開催 参加人数：76 名
自主的な活動を促進し、実践的なスキルアップを図るため、勉強会を開催した。勉強会実施にあたっては、カリキュラムや講師選定等、勉強会を企画・立案し、実施した。（スペイン語・ポルトガル語・英語・中国語 各言語 3 回）
6. 病院からの要請に応じた医療通訳派遣の実施（緊急対応）
緊急時や深刻な場面などにおいて、病院からの要請に応じ、医療通訳者を派遣した。（病院側の予算がない場合は、派遣に係る費用は協会負担）
また、県内 1 病院にて、定期的な医療通訳の配置を開始した。
派遣実績数 4 病院 33 件



外国人住民向けセミナーの様子

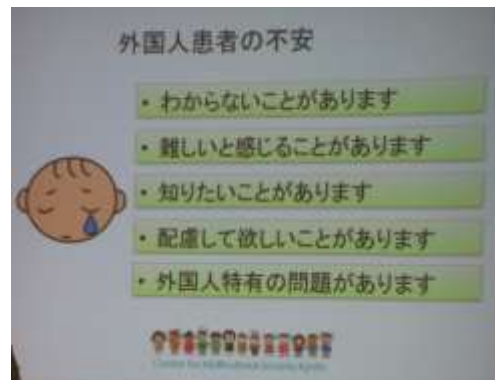


医療従事者向けセミナーの様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

外国人診療をスムーズに行うために、医療通訳の研修や連絡会などを病院内で開催することを心掛けた。実際の診療の現場に近づくために、病院の診療室や器材等の紹介を交えた内容や医療従事者に講師やアドバイザーという立場で参加いただいた。医療従事者向けの研修会へも医療通訳者の参加を呼び掛けるなど、顔合わせや信頼関係を構築するために、顔合わせや交流の機会を多く設定した。

病院内での研修を重ねた結果、中部地域 1 病院への定期的な医療通訳者の派遣を開始した。各地域において関係者のネットワークが構築されたこと、医療通訳を担える人材の発掘及び医療通訳における倫理・領域等の知識の普及が進んだことなどがあげられる。



セミナー資料（外国人患者の不安）

今後の課題・将来に向けての展望等

医療通訳者の人材不足が最重要の課題であったことから、他県で活躍する医療通訳者や医師の演習を中心とした研修会の実施により、医療通訳者の倫理・領域・業務等について、医療通訳者としての責任感や自覚が芽生え、研修会などの参加の姿勢も変化した。

医療従事者・行政・国際交流協会等関係者には、医療通訳を介しての診療の必要性や重要性の理解が進んだと実感した。

また、病院においても、徐々に外国との医療制度や文化の違いやその違いを理解しようとする機運が生まれ、理解者が増えている。

この機を逃さず、継続的な研修会や連絡会の開催と、行政への要望を伝え、体制づくりに着手したいと考える。



医療通訳派遣のチラシ

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 外国人住民にとって、ことばや習慣の違いから、医療機関の受診はハードルが高い。また、医療従事者にとっても戸惑いや不安を抱えての診療を余儀なくされ、ストレスや負担を強く感じているとの報告があった。
- ⇒ 医療通訳を含め、外国人受診者に関する対応は、一病院の事業としては負担が大きすぎるため、他県でも先進事例があるように県、市町、大学、病院等関係機関が連携し、取組んでいる。
- ⇒ 一方、県や市町の関係機関では、行政課題になるまでには至っていないため、静岡県における体制づくりの全体図が描けていないことは一番の課題である。現在では、信頼関係が構築された関係者も増加しており、病院における医療通訳者の設置、関係機関のネットワーク構築など、目に見える効果を感じている。
- ⇒ 静岡県におけるリソースを活用し、継続可能な体制づくりに向けて事業を進めることが大切である。